

きらきらスポーツ

フロアボール

「フロアボール」。北海道での知名度はまだ低いけれど、実は1996年から世界選手権も開かれている室内球技だ。ゴールキーパーを含め6対6で戦う。ホッケーのようにスティックを使い、穴の開いたプラスチックボールを相手ゴールに打ち込めば1点。関東や東北では地区大会も開かれている。

札幌で唯一楽しめる場があると聞き、訪れた。場所は南区の「もいわ地区センター」。毎週金曜夜、フロア全面を使って無料教室が開かれている。5歳から60代まで男女を問わず、さまざまな人が競技を楽しんでいる。でも、なぜここでフロアボール? その疑問に伊藤美樹館長(48)が答えてくれた。

昨秋、フロアボールチーム「遠軽ボンバーズ」が、たまたま同センターで練習した。伊藤館長にとって初めて見る競技。大人も子どもも入り交じって興じる姿に好感を覚えた。「うちのセンターにはリングもネットもないから、バスケットやバレーボールができない。何かいい競技がないか」と考えていた時に出会ったフロアボールに、ピンときた。月1回の体験

5歳の子どもも参加。スティックが大きく見えます



フロアボールの参加者たち



今、伊藤館長には夢が生まれた。「いつか札幌にチームができれば」。そして「ここから世界で戦う選手が出てくれば」。そう願い、バックアップを続けている。(スポーツライター・砂田秀人)

▶ フロアボール 1ピリオド20分の3ピリオド制で行われる。ボールは軽いので当たっても痛くはなく、オフサイドがないなどルールも分かりやすいため、小さな子どもでも楽しめる。もいわ地区センター(南区川沿8の2)で毎週金曜午後6~9時。無料。年齢、性別不問で道具も借りられ、学生ボランティアがゼロから指導してくれる。詳細は同センター☎572・5733へ。

5歳から60代まで楽しく

会からスタート。ロコミなどで参加者が増え、今年5月からは毎週無料開放を行っている。

今では常時10~15人が集まり、汗を流している。小4の佐々木廉

君(9)は友人の誘いで始め、のめり込んでいった。「シュートを決めたときがうれしくて。ずっとやっていたい」と笑顔をみせた。

徐々に競技人口が増えつつある